

教員名	黒崎 龍悟	所属学科	国際学科
【ゼミでは何を学ぶのか】 - 地域研究：現代世界（特にアフリカ地域）を複眼的にとらえるために、政治・経済・文化・社会・生態環境・開発・歴史など多方面からアプローチする視点（地域研究的視点）を養います。 - 国際協力：国際協力や異文化理解のあり方について、統計情報のようなマクロのデータに依拠するだけではなく、ミクロ・レベルの生活者の視点を取り入れながら考えていきます。			
【どのように学ぶのか】 地域研究は「学際的」といわれるようにさまざまな学問分野の知見を活用します。もちろん、歴史ある諸学の蓄積を追うことには限界がありますが、複雑に展開する現代世界をとらえるには柔軟な思考が必要であり、分野を横断して視点を広げることは重要です。また、人びとの生活に密着した国際協力の営みも、こうした地域研究的視点に立脚することが重要です。ゼミではまず、関連する専門書や文献を輪読していきます。このことに加えてゼミでは、身近な環境でフィールドワーク（社会調査）を実践します。自文化理解との往復運動があつてこそ、異なる文化や社会についての理解も深まっていくはずです。この考えのもと、3年次ではフィールドワークの方法論を学んだうえで、各自ゼミの主旨に沿ったテーマを発掘して調査を実践し、独自のデータをまとめていきます。この経験と文献研究に学びながら、卒論に向けてテーマを絞り込んでいきます。4年次には、ゼミでの発表・討論を繰り返すことによって卒論の内容を練り上げます。 ゼミの運営は学生たちとともに考えていきます。ゼミ合宿その他のイベントなど、ゼミ生たちが主体的に企画することを期待しています。			
【学んだことはどのように生かせるのか】 分野を横断して視点を広げる学びは、未知の領域に挑戦しようとする姿勢を培います。また、このゼミが重視しているフィールドワークは身体感覚をフルに生かす作業です。自分で汗して得た情報をもとに考えを組み立てていく経験は、実質的な「知」の集積となり、将来どのような道に進むうえでも必要になってくると思います。			
【おすすめの入門書・基本テキスト】 - 松田素二編『アフリカ社会を学ぶ人のために』世界思想社（現代アフリカを知るための入門書） - 梅棹忠夫『サバンナの記録』朝日新聞社（フィールドワークの現場のおもしろさや大変さがわかりやすく書かれています） - 伊谷純一郎『高崎山のサル』講談社学術文庫（新しい学問領域を切り開く現場の迫力が伝わってきます）			
【まだ見ぬ君へのメッセージ】 自分で問題意識を持ち、自分のペースで計画を立てて取り組む学びの面白さをぜひ知ってください。大学はそのための機会にあふれています。			